

文書館における学校連携事業への取り組み —群馬県の事例から—

小高 哲茂

はじめに

文書館業務の中で最も重要なことは歴史的資料として価値を持つ・持ち得る公文書・古文書等を確実に保存し後世に伝えることである。しかし、保存資料は有効に利用されなければその価値が世に認められることはなく、また保存管理している館業務に対する理解も十分得られないものとする。そのため、利用者の興味関心を喚起させたり、文書館業務への理解を深めてもらったりすることを通じて、保存資料や文書館業務の重要性を社会的に広く認知してもらうための努力が必要となる。

群馬県立文書館では昭和57年の開館以来、古文書講座や展示等を通して保存資料と館業務の普及活動を行い、成果を上げてきた。しかし、県民全体から見ると文書館の知名度は決して高いものではない。館の性格上、図書館や博物館、美術館とは異なり、研究者や学生等限られた人の利用になりがちな事実は否めない。如何に多くの県民に利用を拡げ理解を深めてもらうか、常に大きな課題である。

そこで当館では、児童・生徒向けの「学校連携」事業を普及活動の一つの柱として推進している。子ども達は成長し、未来の社会を担う人材となる。その子ども達に文書館所蔵資料に触れたり業務に関わる内容を体験したりすることを通じて、歴史事象や文書館をより身近に感じてもらうとともに、成長し社会人となってからは利用者や理解者として館の取り組みを支えてくれることも、期待するものである。本稿では、この「学校連携」事業の概要を紹介する。

1. 学校連携事業の概要

平成13年度より本格的に取り組み始めた当館の学校連携事業は、「教科書展示」や貸出を念頭においた「展示パネルのデータベース化」、各展示における「学校連携コーナー」の設置を行ってきた。また、15年度には学校向け資料集『授業で使えるぐんまの資料』も刊行し、県内全ての小・中・高等学校に配付し、現在では一般向けに普及版の販売も行っている（本誌19号での報告を参照されたい）。これらは、当館が県教育委員会の地域機関であり、正規職員の約半数が教員経験者であるという組織・職員

小高 哲茂（こだか てつも）：群馬県立文書館総務普及グループ指導主事。県内公立小中学校（13年間）、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団（2年間）勤務を経て現職2年目。

体制の特徴、昨今の社会情勢を鑑み、地域に開かれた施設を目指し普及活動に力を入れたことが、背景にある。これらを踏まえ、近年は館内のみならず館外での事業も実施している。

18・19年度で取り組んでいる学校連携事業は、館外事業としては「出前講座」「展示パネル貸出」等、館内事業としては「こども探検隊」「来館講座」「子どもコーナー」等が挙げられる。前者は、文書館所蔵資料の学校現場での活用を促進し、資料利用による授業改善を促すこと、後者は、文書館資料やその利用に関わる体験活動を通じて歴史及び歴史資料に対する興味関心を高めてもらうこと、を主たるねらいとしている。また、いずれの場合でも、資料保存の大切さや文書館の業務内容についての説明も加え、その意義を考えてもらえるように内容構成を図っている。

また、「こども探検隊」「子どもコーナー」は本館主催の事業である。「こども探検隊」は、年間行事計画に従って夏休み期間中の7月下旬～8月上旬にかけて開催し、「子どもコーナー」は年間を通じて開設している。「出前講座」「展示パネル貸出」「来館講座」は外部（学校等）からの依頼によって随時計画・開催するものである。

これら事業の計画立案・連絡調整は総務普及グループの学校連携担当が行い、講師は公文書・古文書グループにも分担を依頼し、具体的な活動内容を検討している。実際の活動の準備は各回の講師が中心となり、嘱託職員、臨時職員、学校連携担当等が行っている。学校連携事業に係る経費は館の事業費でまかない、資料代・参加費等は特に徴収していない。

2. 主な学校連携事業の内容

【出前講座】

文書館職員が、学校に出向き社会科や総合学習における学習活動の支援を行うものである。教員との打ち合わせにより、基本的には当該校の学習カリキュラムに即した内容で構成する。学習のねらいに迫るために館所蔵の資料を利用したり体験的な学習を取り入れたりするオーダーメイド的な講座である。

18年度、県立吉井高等学校における「群馬学」講座において、7日間計14時間の授業をおこなった。学校側より特に内容指定がなかったので、「群馬学」の趣旨に即して地域の歴史に視点を当てた7回（1回＝2時間分）の講座とした。オリエンテーション的な内容とそれ以降の学習の基礎知識を確認する導入の授業を1回、そして地域に関連する館所蔵資料を中心と

< 県立吉井高校群馬学講座の内容 >
 文書館の紹介・くずし字入門
 禅林仁叟寺～仏像に込められた人々の願い～
 天災は忘れた頃にやってくる！
 ～天明3年浅間山噴火と吉井宿周辺～
 江戸時代の村の基本台帳～検地帳と宗門人別帳～
 甘楽・多野地域の村議定～<きまり>の今昔～
 群馬っていつどのようにしてできたの？
 「郷土誌」からひもとく100年前の自分のふるさと

した歴史資料を用いて江戸時代・明治時代の事柄をトピック的に取り上げた授業を6回という構成で、地域の資料を用いた授業を展開した。歴史への親しみと地域の愛着が育まれることをねらったわけであるが、ワークシートや講座後の感想、授業中の取り組みの様子において、興味を持って一生懸命活動に取り組む生徒の姿が見られ、一定の成果が上げられたと考える。

【展示パネル貸出】

これは、展示会（収蔵資料展、企画展、特別展）で作成した解説パネル、写真パネル、文書複製物等を館外に貸し出すものである。従来、博物館・資料館へ特別に貸し出していたものであるが、データベース化を期に、文書館ホームページに貸出の手順、リスト等を掲載し、簡易な手続きで貸し出せるようにし、一般団体や学校現場での利用を促進している。写真は、19年度、富士見村立原小学校で実施された（授業者福本明浩教諭）船津伝次平の寺子屋「九十九庵」再現フィルムの写真パネルを活用した授業の様子である。



展示用パネルは、展示で用いればその役割を終えてしまう印象があるが、整理・保存し、利用し易い体制を整えれば、その価値は計り知れないものがあると考えられる。

【夏休み！こども探検隊】

小・中学生の夏休みにあわせて、文書館の紹介、施設見学、収蔵資料を活用した体験プログラムを組み合わせた活動を17年度より開催している。時間は午前10時～11時30分、対象は小学校5・6年生、中学生としているが、実際には、その弟・妹といった幼児・低学年児童、付き添いの保護者も活動に参加している。今年度は「江戸時代へのタイムスリップ」というサブ・テーマで、江戸時代の文字、江戸時代の記録、江戸時代の群馬県、江戸時代から今へ、の4回で行った。具体的な活動内容は、くずし字体験と



第1回 くずし字体験の様子（こども探検隊）



第3回 国絵図ミニパズル作成（こども探検隊）

和綴じ本作り、施設見学と和紙工作（しおり作り）、国絵図パズルの組立・ミニパズルの作成、資料保存の大切さを考える・誕生日の出来事を当時の新聞で調べる、等の体験活動を行った。会場や準備の関係で、参加は少なめであったが、参加者には「面白くて、ためになる」と好評であった。

【来館講座】

他機関、学校からの依頼により、文書館内で開催する体験学習講座である。文書館の見学と体験活動プログラムのセットで行うことが多い。18年度は渋川市立北橋公民館の事業「文書館へ行こう!」、今年度は県立渋川青翠高校図書委員会の行事「文学散歩」において実施した。見学、体験活動プログラムは、こども探検隊の活動をもとに児童・生徒の発達段階に応じ内容の改編を加えた。

【子どもコーナー】

前橋市教育委員会が小学生を対象として実施する「スタンプ・ラリー」の協力施設として、18年度より本館が加えられた。これにより夏休み期間を中心に、子どもの来館が急増した。当初、その対応として「ただスタンプを押すだけでなく、子どもが楽しめる何かを・・・」と考え、設置したコーナーである。「くずし字クイズ」、フィールド・ビンゴの手法による「文書館ビンゴ」、筆ペンを用いる「くずし字体験」等のプリントを準備し、自由に組みめるスペースを設けた。これは子ども達のみならず、引率の保護者、一般利用者にも好評であり、現在では随時内容を入れ替え通年開設している。

今年度は、「県市町村パズル」、「都道府県パズル」、「授業で使えるぐんまの資料」の活用例としての「元禄上野国絵図パズル」を新たに設置したり、自由研究等の調べ学習に使える図書を期間限定で配置したりして内容の充実を図った。直接的ではないが、児童・生徒の興味関心



高校生向体験活動プログラム例（来館講座）



子どもコーナー全景



子どもコーナー設置プリント類

を高めたり学ぶ楽しさを伝えたりする点において、学校連携の一つの形と言えるのではないだろうか。

おわりに - 今後の課題 -

子どもの頃、親にもらった本や連れて行ってもらった遺跡見学がきっかけで、大人になっても歴史に興味を持っている・・・そのようなこともあるのではないだろうか。好奇心が旺盛で多感な時期に体験したり学んだりしたことが、将来思いがけない形で役に立ったり、その考え方に影響を与えたりするものである。当館では、様々な体験を通して子ども達に学びの楽しさ・面白さを感じてもらいたいと考え、これらの学校連携事業を行ってきた。また、文書館業務や資料保存の大切さを知ってもらうことで、将来の館利用・理解への効果も期待している。この成果が目に見えてくるのは少なくとも十数年後であろうか。ささやかな取り組みではあるが、今後も検討改善を加えながら地道に事業を継続していくことが大事であるとする。

最後に文書館の学校連携事業における留意点及び課題をまとめてみたい。

< 個々の事業において >

「ノウハウの蓄積」・・・取り組みをマニュアル化するなど、館として蓄積を図り各種学校等の要求に答えられるようにするとともに、プログラム開発負担の軽減を図る。「学校側との十分な話し合い」・・・学校カリキュラムとの関連を図り、学習のねらいを達成できるようなプログラムの設定を図る（授業との関連による相乗効果を期待する）。

< 館内・外との関わりにおいて >

「学校等教育機関向けPR活動」・・・館の学校連携の取り組みについて効果的に発信し、利用拡大を図るためのPR活動をどのように展開するか。他の教育機関と連携を密にして、折に触れPRし、情報を発信することが必要であると思われる。

「教職員向けの資料活用研修」・・・授業で使える資料を紹介し、館資料の活用による授業の改善例を示す等、教員に対しての発信も行い、授業改善と館及び館所蔵資料の積極的な利用が図られるよう促すことは極めて有効と考えられる。

「他業務とのバランス」・・・限られた人・予算の中でどの程度の事業を行うことが適正か。また、館職員の共通理解が図られ、連携体制が構築できているか。